

為替週間展望 = ドル円は高値圏で一進一退の動きか

[10月14日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月7日～10月11日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	148.76	149.55(10)	147.35(8)	148.69	-0.01
ユーロ・ドル	1.0976	1.0997(8)	1.0900(10)	1.0937	-0.0037

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	39,605.80	+970.18	日本10年債利回り	0.953	+0.067
ダウ平均株価	42,454.12	+101.37	米10年債利回り	4.061	+0.094

<来週の主要経済統計等>

- 14日 中国9月貿易収支
スイス9月生産者・輸入価格
※米国はコロンブスデー (米債券市場は休場)
- 15日 日本8月鉱工業生産指数確報値
英9月雇用統計
独10月ZEW景況感指数
ユーロ圏8月鉱工業生産指数
米10月NY連銀製造業景気指数
カナダ8月卸売上高、カナダ9月消費者物価指数
- 16日 NZ第3四半期消費者物価指数
日本8月機械受注
英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、英9月小売物価指数
カナダ8月製造業出荷
米9月輸入価格指数
- 17日 日本9月貿易収支
豪9月雇用統計
ユーロ圏8月貿易収支、ユーロ圏9月消費者物価指数確報値
欧州中央銀行 (ECB) 政策金利
ラガルドECB総裁記者会見
米9月小売売上高、米新規失業保険申請件数
米10月フィラデルフィア連銀景況指数
米9月鉱工業生産・設備稼働率
米8月対米証券投資
- 18日 日本9月消費者物価指数
中国第3四半期GDP、中国9月鉱工業生産指数、中国9月小売売上高
英9月小売売上高
ユーロ圏8月経常収支
米9月住宅着工・許可件数

【前回のレビュー】今後は米経済指標や要人発言などに左右されそうだ。石破内閣の利上げ封印圧力により、日銀は当面利上げに動くことはないと思われる。一方で、不透明な中東情勢を受けて円高圧力が高まる可能性はある。こうした中、ドル円は最近のレンジ内で方向性を探る動きになるとした。

【ドル円は最近の高値圏でもみ合い】

4日発表の9月の米雇用統計が強い結果となり、7日のドル円は149円近辺で取引を開始した。その後、週の後半にかけてドル円は上下に振幅しながらも147～149

円台で推移となった。7日に三村財務官が「投機的な動き含め為替市場の動向は緊張感を持って注視する」とコメントしたことを受けて円買いが進んだ。

8日もドル円は上値が重く、香港株の急落などを受けて、147円台前半まで軟化した。ただ、売りが一巡すると戻り歩調で推移して148円台を回復した。9日も堅調に推移して、NY時間には149円台に乗せている。

日本時間10日午前3時に発表された米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（9月17-18日開催分）では、一部の参加者が0.25%の利下げを主張していたことが明らかとなった。すべての参加者が利下げを支持しており、大多数の参加者は0.50%の利下げを主張していた。一部の参加者が0.25%の利下げを主張したことで、ドルは底堅い動きを見せた。

10日発表の9月の米消費者物価指数は総合、コアの前月比、前年比ともに市場予想を上回った。ただ、一方で米新規失業保険申請件数が25.8万件となり、事前予想の23.0万件を上回った。米新規失業保険申請件数はこのところ市場予想を下回る結果を見せるなど、雇用情勢の堅調さを示していたが、今回は予想を大きく上回った。

強弱入り混じる指標の結果を受けて、ドル円は直後に大きく振幅した。149.50近辺まで買われた後に148.30前後まで下落した。その後も上下に振幅して148円台を中心に推移している。

10日の米新規失業保険申請件数が予想を大きく上回るなど、今後の米雇用情勢に警戒感を感じさせる結果となった。ただ、今回の25万件を上回る結果はハリケーン「ヘリーン」の影響が大きいとの見方が広がっている。今後の米国の雇用情勢はハリケーン「ヘリーン」や「ミルトン」の影響で振れが大きくなる可能性が高まっている。

ドル円は今後の米経済指標の動向に左右されやすい展開が見込まれる。ただ、多くの指標が一方向的に悪化に傾く可能性は低いとみられる。不透明な中東情勢を受けて円高圧力が高まる可能性はあるものの、ドル円は高値圏で一進一退の動きを見せることとなりそう。ドル円の先の予想レンジは、145.00～152.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、15日に日本8月鉱工業生産指数確報値、米10月NY連銀製造業景気指数、16日に日本8月機械受注、米9月輸入価格指数、17日に日本9月貿易収支、米9月小売売上高、米新規失業保険申請件数、米10月フィアデルフィア連銀景況指数、米9月鉱工業生産・設備稼働率、米8月対米証券投資、18日に日本9月消費者物価指数、米9月住宅着工・許可件数などがある。

【ユーロドルは軟調な動きが継続か】

ユーロドルは4日に1.1000ドルを割り込んだ後も下落基調で推移している。米10年債利回りが4%超の水準に乗せたことなどからドル買いの動きに傾いており、ユーロドルには重石となっている。また、10月17日の欧州中央銀行（ECB）理事会で利下げに動くこととみられ、ユーロの上値を抑えている。ECBは10月と12月のECB理事会でそれぞれ0.25%ずつの利下げに動くことの見方が広がっている。なお、理事会後の記者会見でのラガルドECB総裁の発言が注目される。追加利下げに前向きな姿勢を示せばユーロ売りにつながりそう。

ユーロ圏の経済指標は悪化一辺倒というわけではないものの、インフレ指標の鈍化傾向を背景に景気支援のために年内は利下げが継続するとみられる。テクニカル的には下向きで推移する5日移動平均線に上値を抑えられており、ユーロドルは軟調な動きを継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0700～1.1050ドル。

ポンドドルは3日にバイリー英中銀総裁が金利引き下げに「もう少し積極的になる」可能性を示唆と報じたことで、1.3100ドル割れまで急落した。その後は1.30台から1.31台でもみ合いとなっている。大きく下落した後だけに下げが一服している。市場では英中銀は年内1回から1.5回程度の利下げ予想となっており、FRBやECBに比べて利下げの動きが遅れそう。こうした中、最近の安値圏のレンジでのみみ合いになるとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2900～1.3

200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、14日に中国9月貿易収支、スイス9月生産者輸入価格、15日に英9月雇用統計、独10月ZEW景況感指数、ユーロ圏8月鉱工業生産指数、カナダ9月消費者物価指数、16日にNZ第3四半期消費者物価指数、英9月消費者物価指数、英9月生産者物価指数、英9月小売物価指数、17日に豪9月雇用統計、ユーロ圏8月貿易収支、ユーロ圏9月消費者物価指数確報値、欧州中央銀行（ECB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、18日に中国第3四半期GDP、中国9月鉱工業生産指数、中国9月小売売上高、英9月小売売上高、ユーロ圏8月経常収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。